



女性目線で楽しく！  
森の魅力にふれる活動

取材協力 林業女子会@さが  
かどわかめぐみ  
会長 門脇 恵さん

東京出身の門脇さんは子どもの頃から山暮らしに憧れ、地域おこし協力隊として佐賀市富士町に移住。林業女子会を立ち上げて、現在14名の女性たちと活動しています。端材を利用したウォールアートの制作や『林業BAR』などのイベント開催、そして三瀬村に土地を借りて自分たちの森づくりにも取り組んでいます。

門脇さんは「私たちが目指すのは植生が豊かな森。スギやヒノキだけでなく、天然で生えてきた山桜などもその

フィールドワークと、女性目線の発想で新しい山の活かし方を実践しています！



まま育てます。またウッドチップを敷いて小道にしたり、ミツバチの巣箱を置いたり、遊び心を持ちつつ本来の豊かな生態系である色々な生き物が住める場所にしたいです。自分たちで森をつくることは夢だったので、みんなうきうきです！と笑顔。今後はワークショップなどを通じて、森を見に来てもらう計画も。「山好き」だけでなく「木材好き」「キノコ好き」など多彩なメンバーが集まる林業女子会@さが。楽しみながら、森の魅力を次の世代に繋げていきます。

トピック

県では、豊かな「森・川・海」を人が未来へつなぐ『森川海人プロジェクト』に取り組んでいます。また、先人たちが大切に育み残してくれた壮大な森林を次世代の豊かな暮らしへ繋げるため、「県民参加の森林づくり事業」により、NPO法人やボランティア団体などの植樹や竹の伐採、枝打ちといった活動を支援。佐賀の森林をみんなで支えて育んでいます。



プロジェクトキャプテン  
森川海人くん

植樹活動などを通じて、森林を身近に感じながら森林づくりを行います



THE WOODS KIYAMA (基山町)

特集

# 豊かな森林づくりが、未来へとこだまします。

私たちにあって森林は癒やしの場であり、川・海へと続く水の循環の出発点でもあります。そこで今月は林業の分野で活躍するみなさんを紹介。ふるさとの森林の大切さや魅力にふれてみましょう。

太良町森林組合の  
想いに共感した若者が  
次代の林業を  
担っています

山を育みながら、  
山を愛する心を育む

まっすぐで節がなく、ピンク色が美しい『多良岳材』。それは太良町森林組合のみなさんの、森林づくりに対する想いがあるこそ生まれます。組合長の村井さんにお話を伺いました。

「私たちが行っている枝打ちや間伐などの作業は、山に光を入れ、緑豊かな山を育みます。健全な山は豊富な地下水に恵まれるだけでなく、大雨が降ったときの洪水や土砂災害の緩和にもなるんですよ。森の恩恵は山から川を通して海にまで広がっており、私は

森林を適切に管理することは、山に住む人だけでなく川の下流に住む人々の暮らしを守るのだと思っています。」

平成25年からは『多良岳200年の森』プロジェクトがスタート。現在スギやヒノキは30〜40年で伐採されますが、この森では樹齢200年の価値の高い木を育んでいます。

また1000ヘクタールという広い規模で『壮樹の森』計画も始まりました。そんな未来に向けての取り組みで大切なのは、山に対する想いや技術を

大型の重機を使わずに、間伐した木材を少しづつ丁寧に扱います



『多良岳200年の森』プロジェクト  
コンセプトムービー公開中！



次の世代へつなぐこと。そこで太良町森林組合では、毎年多良小学校の生徒たちの植樹・育樹体験も行っています。「子どもたちに森林の役割や、あたりまえのものは自然の大切さを伝えたい」と村井さん。多良岳で豊かな森林を育みながら、子どもたちの『森林を愛する心』も育んでいます。

取材協力 太良町森林組合  
むらい しげあき  
組合長 村井 樹昭さん

